

化学量論式を用いた栄養塩再生比の推定

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2024-08-06
	キーワード (Ja): 化学量論; 栄養塩再生; 広島湾; 瀬戸内海
	キーワード (En):
	作成者: 阿部, 和雄, 松原, 賢, 阿保, 勝之
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010621

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



化学量論式を用いた栄養塩再生比の推定～広島湾への適用～

阿部和雄・松原 賢・阿保勝之

植物プランクトン等の種組成の変遷に関わる栄養塩環境要因の一つとして、栄養塩再生比を夏季の広島湾において推定した。広島湾の水深10m以深では、ケイ酸、リン酸塩、および溶存全無機窒素の見かけの酸素消費量(AOU)に対するプロットから、栄養塩成分の濃度増加(溶解)には溶存酸素消費が伴うことが示され、栄養塩再生比の推定にレッドフィールドの化学量論式が適用可能なことが示唆された。栄養塩とAOUの関係に基づいて算出した栄養塩再生比($N:P:Si = 10:1:59$)は、標準的な比($16:1:15$)から大きく逸脱していた。これらの逸脱は、栄養塩分解再生パターンの地域特性を示していることが示唆された。